

令和2年度 東淀中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1-2 「中学生チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

1 中学生チャレンジテスト・中学生チャレンジテストplus

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
1 年	学校	209	48.7	51.2	46.2	52.1	50.0	19.5	7.3	11.8	5.7	6.4
	大阪市	—	55.1	56.2	53.3	65.6	62.7	12.4	4.5	8.0	3.0	3.1
1月13日	大阪府	—	56.1	—	54.0	—	63.8	12.7	—	8.7	—	3.3
2 年	学校	189	50.0	51.5	44.2	46.3	39.2	13.0	7.1	11.1	6.2	6.6
	大阪市	—	57.1	55.2	49.3	49.8	51.7	10.6	5.5	9.4	5.4	4.8
1月13日	大阪府	—	58.3	54.5	49.4	49.5	52.0	10.1	5.8	10.0	5.8	4.8

※ 1年生の社会・理科については、「中学生チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は エネルギー 領域を選択

※ 2年生の社会は A 問題を選択

結果の概要

3年生は今年度、コロナ禍のため全国学力・学習状況調査、チャレンジテスト、大阪市統一テスト、いずれも実施が見送られた。

2年生チャレンジテストでは、標準化得点が昨年度より3.7ポイント向上、府平均の7割に満たない生徒の割合は5.7ポイント減少、府平均を2割以上上回る生徒の割合は7.4ポイント増加した。

1年生チャレンジテストでは、昨年度の1年生と比較して、標準化得点は2.0ポイント向上、府平均の7割に満たない生徒の割合は3.0ポイント減少、府平均を2割以上上回る生徒の割合は2.6ポイント増加した。

成果と今後取り組むべき課題

昨年度と比較して、教科全体では改善が見られた。生活指導面が落ち着いたことや「わかる」授業の推進、授業改善、学習会等の取り組みに成果があったと考えられる。今後も効果のある施策は続けて実施していきたい。ただ、教科によって取り組み状況や成果に差があるので、今後分析を進め、更なる改善を図りたい。さらに、基礎学力の定着ができていない生徒の割合も多く存在している。家庭学習やICTの活用等を進めながら改善していきたい。